

愛知医科大学学報



メディカルセンターとシャトルバス

＝ 第181号 ＝
2026.1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ	2
役員・評議員の異動 学長に伊藤恭彦理事が新任	7
秋の叙勲の榮譽	7
令和8年新年祝賀式挙行	8
教育・研究・診療の募金寄附者ご芳名	10
令和8年度学年暦のご紹介	18
シミュレーションセンター10周年記念講演	20
医学部長表彰	26
病院立入検査実施	26
外傷診療施設機能評価制度SSS評価	27



— 令和8年 年頭のごあいさつ —

理事長・学長 祖父江 元

皆さま、明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、お元気で新しい年を迎えられていることと存じます。しかし、一昨年から始まった大きな変化として、働き方改革、医療材料費や人件費の高騰、全国的な大学病院の経営困難などが続いており、今年も課題の多い1年になりそうです。そのような中、現在進行させているミッションを幾つかご紹介するとともに、今後の展望に触れてみたいと思います。

○中期計画・中期目標の設定と実行努力と評価

2024年4月に中期計画・中期目標2028を設定しました。これは2024年から2028年までの5年間の目標・ミッションになります。内容は、大学のホームページなどに掲載してあり、詳細はご覧いただけるとありがたいと思いますが、その中核は、①財政基盤の確立、②部署別の中期目標の策定と実行・評価、③働き方改革の実質化、④地域医療の革新：循環型医療システム・リハビリ改革・救急体制の実質化、⑤世界を見据えた教育・研究の推進、⑥DX・AI推進による経営改革の六つです。いずれも重要で、部局ごとに、あるいは大学全体として年次目標を共有して、PDCAサイクル（Plan, Do, Check, Action）を回しながら最終的に5年目には目標の達成を目指すというものです。これらを実行するためには、患者さんへの思い、社会・地域への貢献、大学への貢献、更には経営に対するコスト意識の醸成などが重要であると考えます。今回のごあいさつの中では、現在進めていることの一部をご紹介します。

○地域医療への貢献、総診・内科救急センターの立ち上げ

一つは地域医療への貢献です。いま地域医療で何が困っているのかという問いかけが重要です。それは、超高齢化に伴う患者数の爆発的な増加と疾病構造の変化です。パーキンソン病、認知症、心不全、がん、糖尿病・合併症、慢性関節リウマチ、虚血性血管障害、骨折及び腎不全など多くの疾患で患者数の爆発的増加が起こっており、心不全ではoutbreakなどと言われています。特に一次、二次救急の増加、慢性期の再発と進行にどのように対応するか、また、このような病態をどのように治療するかが重要です。

救急では、一次、二次救急と総合診療を合体した、何でもできる総合医の育成が重要です。現在このようなミッションを担う総診・内科救急センターの設立を進めています。本センターで従事する医師には、救急科専門医、総合診療専門医、内科専門医が実践OJTを行い、複数の専門医を目指すというものです。総合的な力で病院内での総合医として役割を果たすとともに、地域の総合医としても活躍してほしいと思います。

慢性期には、本院の専門医と地域のクリニックが連携して2人主治医制を敷き、患者さんには普段はクリニックに受診しながら、半年から1年に1回程度、病態診断と治療方針などの評価・診療のため本院に受診してもらうという、言わば患者循環型の診療が重要ではないかと考えています。これは時間軸を含めて患者さんを地域で支えるという考え方であり、地域医療のあり方が大きく変わってきていると思います。本院では、現在この点も考慮して全診療科の専攻医を3か月間救命救急科へ配属し、更に内

科全科の専攻医を3か月間メディカルセンターへ配属しています。

更に地域連携の促進は、看護師の担う役割が大きいと思います。令和7年8月から看看連携を進めている15病院の中で看護師の研修派遣を始めており、大変強い連携が図られています。本年も更なる発展を期待しています。

○病院病床管理部の設立と病院運営の活性化、AI・DX促進

令和7年10月に本院の病床管理部を立ち上げました。これは病床稼働率100%を目指し、病床のコントロールと患者さんの入退院を集中的に管理するものです。医師、看護師及び事務職員が一丸となって専属的に動いています。今まで、病床管理は主に各診療科毎に行われており、病院全体の管理が十分にできていない状態が続いていました。病床管理部が10月に立ち上がったから、病院を挙げて各診療科を超えた病床管理が行われており、稼働率は100%近くを維持し、病床の運用に対する意識も大きく変化してきていると感じます。これは働き方改革や入院・下り搬送を通じて地域医療とも密接に関連するミッションになってきており、地域の期待も大きいところではあります。

また、病院運営全体にAI・DX化を進めていきたいと考えております。最近のAI・DXの医療関係への導入は急速に進化しており、業務の時間短縮や効率化に大きな力を発揮しています。国もこれを資金的にも支援してきており、大きな研究領域になってきています。また、病院長・理事長が統括するチームによる各診療科ラウンドも月2回行っており、各診療科と運営側との情報交換を含めて風通しが大きく改善していると感じます。

○本学独自の人事制度の導入に向けて

本学は従来、国家公務員の人事制度（人事院勧告による年功序列的の制度）に準拠してきましたが、個人の努力が適切に評価され、成長やキャリア形成に貢献し、職場の活性化にも繋がる独自の人事制度の導入が検討されています。全国の私立医科大学では、

31校中25校が既にこの方向性での検討または実施を行っており、人事院勧告に基づいた人事制度はむしろ少数派になりつつあります。新制度の導入には個人の評価制度の樹立が極めて重要であり、現在、外部専門家の協力も得ながら整備を進めているところです。令和9年度始めには部分的にも導入していきたいと考えています。

○財政基盤の確立に向けて

令和6年度には国立大学・私立大学ともに70%の大学が赤字決算でしたが、令和7年度はこれを更に上回る状況になると考えられてきました。この状況に国も補正予算を決定しており、厚生労働省は大学病院を含めた医療全体に一定の補助を決めています。文部科学省は大学病院機能強化推進事業を進めており、本学としても、先に述べた「大学病院と地域医療を繋ぐ総合医の育成」を提案しています。更に、令和8年度には診療報酬の改定が行われます。現時点ではまだその詳細は明らかになっていませんが、現在の困難な状況をもたらしている物価、医療経費及び人件費の高騰に対しての一定のサポートになると考えられています。また、大学病院などの特定機能病院には傾斜配分も検討されているようで、安定した財政基盤の構築、いわゆる構造改変に基づく新たな進化を求められていると感じています。病院運営の活性化、地域医療、救急体制、人材の適正化、AI・DX化、診療の総合化と高度化などの改変を更に進めていきたいと考えています。加えて、令和8年度予算は、皆さまのご尽力のお陰で黒字化が見える予算立てが可能になってきています。

また更に、大学病院（特定機能病院）の評価方法の見直しが進められており、特定機能の高度化、臨床研究開発、企業連携、人材育成、AI・DX改革などが今後の評価の対象になってくると考えられます。

今回のごあいさつでは、全体の中期目標の概略をご紹介するとともに、事業活動の一部を紹介しましたが、皆さま方には継続的なご支援をいただければ大変ありがたいと存じます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



－生成AIと医学教育－

医学部長 笠井 謙次

『新年あけましておめでとうございます。』

皆さまにおかれましては、清々しい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

平素より、愛知医科大学医学部の教育・研究・診療、ならびに地域医療への取り組みに対し、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学医学部は、建学の精神のもと、「人間性豊かな良医の育成」を使命として、教育・研究・診療の三位一体の充実に取り組んでまいりました。

医学・医療を取り巻く環境は急速に変化しており、少子高齢化の進行、医療の高度化・専門化、デジタル技術やAIの進展など、私たちに求められる役割はますます大きくなっています。教育においては、確かな医学的知識と臨床能力に加え、高い倫理観とコミュニケーション能力を備えた医師の育成を目指し、学生一人ひとりに寄り添った教育体制の充実を図ってまいります。研究においては、基礎から臨床まで幅広い分野での学術的探究を推進し、医学の進歩と新たな医療の創出に貢献してまいります。また診療の面では、高度急性期医療から地域に根ざした医療まで、安全で質の高い医療を提供し、患者さんご家族から信頼される医療機関であり続けることを目指します。とりわけ本学は、地域医療を担う中核的存在として、自治体や医療機関との連携を一層強化し、地域包括ケアの推進や医師養成を通じて、地域社会の健康と安心に貢献してまいります。

本年も、教職員、学生、卒業生、そして地域の皆さまと力を合わせ、愛知医科大学医学部のさらなる発展に努めてまいります所存です。

皆さまのご健勝とご多幸、そして本年が実り多き一年となりますことを心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。』

以上は、AI素人の私が初めてChatGPT（無料版）

に作らせた年頭あいさつ文です。的確に論点を押さえ十分使用に耐えるこの文章を、私が自分で作成するなら数時間かかるところをChapGPTは数秒で完成させました。このように世界中の既存データを探索し連携させ、最適値を予測し出力する能力において、生成AIは人間より遥かに優れています。

これまで本学では自らの頭脳（offline）で分析・評価・判断する能力、批判的思考（クリティカル・シンキング）の能力を育むため、医学部学生の生成AI使用を否定してきました。しかし診療や研究を含む医療界にAIの導入が加速する中、引き続きoffline重視の教育姿勢を維持しつつも、あえて生成AIを使用させる（online）教育場面の提供が必要であるとの考えに変更しました。そのため現在いくつかの講義実習では生成AIでの課題作成を課しています。

では今後、診療研究の現場はこのままAIに取って代わられるのでしょうか？自ら思考する医師・医学研究者は不要でしょうか？これもChatGPTに「医学研究 AI その先」と入力し聞いてみました。すると、『いいテーマですね、これからは因果推論が研究者の必修科目になります。また、これからの強い研究室とは、臨床を理解する人、AIを実装できる人、因果推論・統計に強い人、倫理・IRBを語れる人でしょう。』と出力されました。嘆息、AIに褒めていただける時代が来るとは思っていませんでした。これにひるまず、適宜AIを利活用しつつ批判的思考（と因果推論）を高める教育、そして何より、物対人ではなく人対人の関係性、humanity・humanismを重視した教育を推進したいと改めて感じた次第です。

引き続き皆さまのご支援を頂戴できれば幸いです。



－看護学部の新たな取り組みの 更なる充実に向けて－

看護学部長 若杉 里実

令和8年の年頭に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。皆さまには、日頃より看護学部・看護学研究科の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

愛知医科大学看護学部は、令和7年度に創立25周年を迎えました。新しい一年に向けての抱負を述べさせていただきます。

令和4年度からスタートさせた新カリキュラムが4年目を迎えますので、前期課程（1,2学年次）のスケジュールの過密性、科目の開講時期や教授する順序性の見直しを行い、令和7年7月にカリキュラム変更届を文部科学省に提出し、令和7年12月16日（火）に承認されました。

令和7年3月17日（月）に提示された改訂版看護学教育モデル・コア・カリキュラムでは、コンピテンシー基盤型カリキュラムに基づくアウトカム評価が求められています。今後は、中長期的な視座の下、社会的要請に対応し得る看護実践能力を確実に修得できるためのカリキュラム開発を目指して、コンピテンシー基盤型教育カリキュラムへの転換に向けた準備を進めていきます。

令和7年4月には、ユニフィケーション体制の維持・強化を図り、医療・看護を取り巻く状況変化に柔軟に対応するヘルスケアを共創していくことを目的とし、看護学部に「ヘルスケア共創センター」を設置しました。本センターの部門員は、看護学部の教員と本院看護部及びNP部の職員で構成され、「ユニフィケーション部門」、「生涯学修支援部門」、「地域連携部門」「研究部門」の4部門を有しております。看護の学びを深化する場、看護職の未来を創造

する場、ヘルスケア推進のために人を繋げる場として、本学・本院・地域が有機的に繋がり合うプラットフォームとなることを目指していきます。

令和7年2月の中央教育審議会において、わが国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～が提示されました。高等教育の中でも、とりわけ大学院は、知の生産、価値創造を先導する「知のプロフェッショナル」を育成する役割を中心に担うことが期待されております。

本学大学院看護学研究科は、令和7年4月から看護学博士のPh.Dと看護実践博士のDNPの二つのコースを同時に開設致しました。4月から試行錯誤を繰り返しながら、博士後期課程の運営を進めております。今後は、講義の内容だけでなく、教授する順序性や過密性など、実際に学んでいる院生の声を大切に教員間でディスカッションを重ね、より質の高い教育内容に改善してまいります。DNPコースについては、日本では聖路加国際大学、北里大学、国際医療福祉大学に続き四つ目の大学となり、中部・関西地方では初めて開設することとなりました。今後は、「DNPシンポジウム」に参画し、他大学と情報交換を行わせていただきながら、日本におけるDNP教育の発展に寄与していきたいと考えております。

学部から大学院まで看護職としての学びを継続し、キャリアアップに繋げることができる大学として、更なる発展ができるよう努めて参ります。

皆さまのご健康と益々のご活躍を心から祈念して、年頭のごあいさつとさせていただきます。



謹賀新年

— 新たな年を迎えるに当たり、
ごあいさつ申し上げます。 —

病院長 天野 哲也

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆さまにおかれましては、平素より本学及び本院の教育・診療・研究活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年、病院長を拝命して以降、私が最も重視して取り組んできた課題の一つが、「限られた医療資源を最大限に活かすための病床運用の最適化」です。その象徴的な取り組みとして、昨年10月に病床管理部を発足させ、全院的な視点から病床稼働の可視化と調整を行う体制を整備しました。

しかしながら、こうした仕組みが実際に機能し、成果として結実している背景には、現場で昼夜を問わず調整に当たっている医師、看護師、医療スタッフ及び事務職員を始めとする、多くの教職員の不断の努力と献身があることを、決して忘れてはなりません。

従来の診療科単位の「部分最適」から脱却し、病院全体としての「全体最適」を目指すこの試みは、病床稼働率100%を目標に掲げており、既に入退院調整の円滑化や救急受け入れ余力の向上といった具体的成果として現れ始めています。昨年11月、12月においては断続的に病床稼働率100%を達成することができました。

この成果は決して数字だけの話ではなく、患者さんを一人でも多く、安全に、適切なタイミングで受け入れようとする現場の強い使命感と、職種を超えた協力体制の賜物であり、教職員一人ひとりの努力に心から敬意を表したいと思います。

本年の目標の一つとして、増加し続ける一次・二次救急、とりわけ多疾患併存・社会的背景を抱える高齢者救急への対応力の強化が挙げられます。高齢者救急は単なる救急医療に留まらず、急性期治療後の療養・生活支援を見据えた包括的な視点が不可欠です。

本院では、多職種連携を基盤とした診療トリアージ及び病床運用により、「断らない救急」と「安全で質の高い入院医療」の両立を目指していますが、

その最前線で患者さんと向き合い続けているのは、まさに現場の教職員の皆さんです。多忙を極める中でも、患者さんの尊厳と安全を最優先に行動して下さっていることに、病院長として深く感謝申し上げます。

また、本院の社会的使命として重視しているのが、地域医療への積極的な貢献です。近年進めている看護師の地域医療機関への出向・派遣は、人材育成と地域支援を両立させる新たな試みであり、地域全体の医療提供体制の底上げに寄与するものと考えています。慣れない環境で責任ある役割を担ってくださっている看護師の皆さん、そしてそれを温かく支えている院内スタッフの理解と協力に、改めて敬意を表します。大学病院が「人を育て、地域に還元する」役割を果たすことの重要性は、今後更に高まっていくでしょう。

国政に目を向けますと、医療・科学技術・安全保障を重視する高市政権の下で、医療提供体制の強靱化や人材確保に向けた実効性ある政策が進むことに大きな期待を寄せています。とりわけ、急性期医療・救急医療を担う基幹病院への支援は、国民の安心・安全を守るうえで不可欠であり、本院としても、日々現場で奮闘する教職員の声を代表し、実情を発信し続けていく所存です。

本院の使命は、言うまでもなく医療の質と安全性を不断に高めること、そしてそれを支える持続可能な病院経営を確立することです。病床管理、救急医療、地域連携、人材育成のいずれもが相互に関連し、「全体最適」として機能して初めて、大学病院としての真価が発揮されます。そしてその中心にいるのは、他ならぬ現場で働く職員の皆さんです。

結びに、本学及び本院を支えてくださるすべての皆さま、とりわけ日々の診療・看護・支援業務に真摯に向き合ってくださいしている教職員一人ひとりのご健勝とご活躍、そして本学及び本院の更なる発展を心より祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

役員・評議員の異動 —学長に伊藤 恭彦理事が新任—

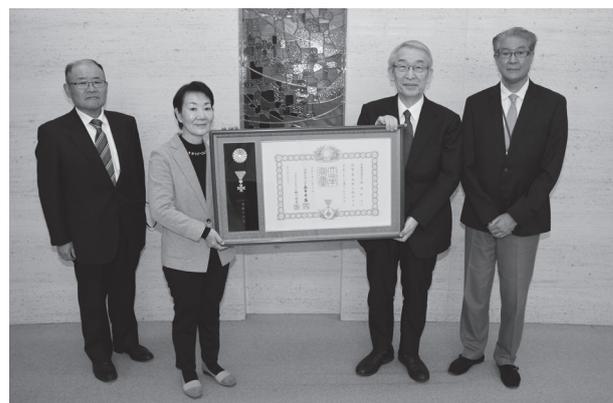
現学長の任期満了に伴い、令和7年12月8日（月）開催の理事会において、伊藤恭彦理事（内科学講座(腎臓・リウマチ膠原病内科)特命教授，経営戦略推進本部副本部長）を次期学長に選任することが決定しました。

任期は、令和8年4月1日から令和12年3月31日までの4年です。

瀧井 和子元看護師長 秋の叙勲の栄誉

本院元看護師長の瀧井和子さんが、令和7年秋の叙勲において瑞宝単光章を授与され、令和7年11月12日（水）にホテルニューオータニ東京において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

瀧井さんは、准看護婦として働きながら看護婦免許を取得し、昭和53年4月に消化器・腎糖尿病内科病棟に配属された後、昭和59年11月に主任、昭和61年11月に看護婦長（後に看護師長）に昇任し、看護業務や現場と経営のマネジメント、部下の育成に尽力されました。看護の質向上のため、院内委員会活動にも積極的に参加され、看護部教育委員として27年間活躍されました。平成27年3月に定年退職を迎えられた後も、平成28年5月まで再任用職員として看護業務に従事されました。



祖父江理事長等との記念撮影
(左から2番目：瀧井さん)



瑞宝単光章賞状

令和8年新年祝賀式挙行

令和8年1月5日（月）午後3時から、大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が挙行されました。【写真】

祝賀式では、祖父江元 理事長から新年のあいさつが行われた後、本学及び本院の当面の課題と将来につながるビジョンとして策定された中期目標・中期計画に基づく六つの重点項目が改めて示されました。その具体的な進捗状況や今後の予定として、次の五つのトピックスについて説明があり、最後に「これらの取り組みを通じて、今後更なる発展に繋げていきたい」と締めくくりがありました。

○病床管理部について

令和7年10月に設立した病床管理部は、専念型の多職種プロフェッショナルで構成されています。従来よりも権限を拡大し、「入りの充実」、「出の充実」を図ることで、目標である病床稼働率100%の達成に向けて病床を総合的に管理し、その結果、病床稼働率は着実に上昇しています。

○新人事・給与制度改革について

従来の制度から、頑張った人が適切に評価され、それぞれのキャリア形成が可能となる新制度へ改正します。そのため、多様な大学業務に対応した評価制度の構築を最重要課題と位置付け、教職員へのヒアリングを実施した上で、制度改革を進めていく予



定です。

○救急（一次・二次）及び総合診療改革について

疾病構造の大きな変化を踏まえ、医療に求められる総合診療体制の整備と人材育成を進めていきます。今後増加が見込まれる高齢者救急に対応できる医療体制及び育成体制を整えていきます。

○AI戦略への取り組みについて

診療業務の簡略化・効率化に加え、研究・教育、診断や治療に関わる分野においても、AIの活用による効率化を進めていきます。

○本院看護師の出自研修について

本院の看護師を地域の看護連携ネットワーク病院へ出向させることで、より強固な地域病病連携・看護連携を推進していきます。

役員・名誉教授・教授懇親会開催

令和7年12月18日（木）午後7時から、名古屋東急ホテルにおいて、役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。お忙しい中、ご参加いただいた59名の先生方は、久しぶりにお会いできたこともあり、会話が弾んだ様子で大変有意義な懇親会となりました。

当日は、祖父江元 理事長による本学の現状と展望を踏まえたあいさつの後、稲福繁名誉教授の音頭で乾杯が行われ、会が始まりました。冒頭では、新たに就任された名誉教授、教授及び役員の先生方の紹介がありました。その後、歓談の時間を挟みつつ懇親会が進む中、笠井謙次医学部長、若杉里実看護学部長、天野哲也病院長から大学及び本院の近況に



あいさつをする祖父江理事長

について報告されました。最後に、羽生田正行理事からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。

ふるさと納税（寄附）及び教育・研究・診療の 基盤整備（施設・設備）事業募金ご協力をお願い

ふるさと納税（寄附）について

長久手市は「ふるさと納税（寄附）制度」を活用し、市内の大学の支援を開始しました。ふるさと納税制度を通じて、実質2,000円の負担（控除上限額は年収と家族構成により各個人異なります。）で、直接「愛知医科大学」を支援いただけます。寄附金は未来の医療人育成を中心に、教育研究活動の推進に資する事業に活用いたします。

ふるさと納税（寄附）の御礼

市からの返礼品はありませんが、大学から心ばかりの御礼を贈呈します。

1 ふるさと納税での寄附金額が1万円以上の方 愛知医科大学オリジナルグッズから1点



キーホルダー



手提げ袋



クリアファイル・
ボールペンセット



フェイスタオル



ワイヤレス充電器



2 ふるさと納税での寄附金額が5万円以上の方 上記1に加え、院内又は学内食堂食事券などから 1点（なお、5万円増すごとに1点ずつ加算して 贈呈します。）



ブルネエズ株式会社と本学共同開発のハンドクリーム



病院レストラン「シトラス」
食事券1セット（定食×2食分）



大学本館1階食堂「オレンジ」
食事券1セット（日替ランチ×5食分）

3 ふるさと納税での寄附金額累計が200万円以上の方

本院でのプレミアム人間ドックの受診



※ふるさと納税の御礼1,2を受ける場合は、同御礼3の寄附金額累計に加算されませんのでご注意ください。

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備） 事業募金について

- ① 募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業
- ② 募金1口の金額 個人：1万円 法人：5万円
- ③ 税制優遇措置
個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択等
法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の顕彰

- ① 広報誌・HP等での寄附者の御芳名（個人名、法人名）
- ② 個人10万円以上（累計）、法人50万円以上（累計）寄附者御芳名（プレート）
- ③ 個人100万円以上（累計）寄附者御芳名（タイル）

寄附の方法

<書面（郵送）>

・本学HPから必要な書類をダウンロード又は資金出納課までご連絡いただければご郵送いたします。

<インターネット>

・本学HPからお申込みいただき、クレジットカード、コンビニエンスストア等を利用するお支払いが可能です。

より詳しい詳細はQRコード
からご覧になれます！



教育・研究・診療の基盤整備
（施設・設備）事業募金



ふるさと納税

●お申込み・お問い合わせ ご不明点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 財務管理室 資金出納課 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL : 0561-63-1062 (受付時間 8 : 30 ~ 17 : 15 土日祝日を除く) ✉ sikin@aichi-med-u.ac.jp

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金寄附者ご芳名

令和6年4月より開始しました「教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金（ふるさと納税含む）」につきまして、ご寄附を頂いた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。（敬称略）

（令和6年4月1日～令和7年12月31日現在）

（募金総額 224,189,110円 募金者数：個人 367件 法人・団体 31件）

<個人>

秋山 征巳	朝井 規仁	足立 義一	鮎川 浩志	有村 隆	有賀 雅和	安藤 靖
飯田 俊郎	池上 登貴子	池上 博彦	池田 大助	石川 厚子	石川 憲治	石川 小百合
石倉 功一	石島 正嗣	石原 幸司	石原 成光	泉 雅之	板倉 宏之	市川 光生
伊藤 恭彦	稲垣 里咲	岩田 真旺	岩船 徹雄	上野 隆彦	牛田 享宏	梅田 喜亮
梅村 幹雄	江副 真智子	遠藤 博之	大谷 壮志	大塚 剣	大西 功	大平 正宏
岡副 薫	岡本 雄一	小川 麻子	奥永 知宏	海原 彰二	笠井 謙次	葛西 博幸
柏木 健志	可知 裕章	加藤 和紀	加藤 大典	加藤 豊文	加藤 唯	金井 利浩
神谷 知子	狩浦 一男	川崎 恭典	川澄 本明	漢人 直之	木俣 一郎	木村 麻子
具志堅 益一	久保田 忍	久保田 雅博	黒川 道雄	黒田 ひとみ	桑原 生秀	小出 龍郎
古井戸 康雄	神前 あい	神前 賢一	小嶋 丈司	小塚 聡	後藤 弥峰	後藤 裕美
小林 博文	近藤 朋志	三枝 純一	齋藤 稿典	斎藤 優真	酒井 英訓	坂田 史子
坂本 洋子	佐竹 真一	佐藤 良幸	柴垣 有吾	柴山 始久	島田 孝一	志水 麻実子
白木 直也	新海 博子	神野 安季子	須賀 茂樹	菅村 一敬	杉田 威一郎	鈴木 敦
鈴木 謙一	鈴木 哲男	鈴木 亮	瀧川 伸江	園田 泉	祖父江 元	高柳 友子
武居 敦英	田中 一字	田中 基貴	田中 佳志子	田邊 直樹	谷口 恵祐	田畑 光久
田村 淳	近田 研	千田 勢子	千葉 聡司	月山 啓	月山 聖子	辻浦 亜紀
都築 治之	坪田 眞左子	寺部 浩司	土井 浩史	土居 聡	遠山 美智子	富樫 孝
利根 牛松	利根 鈴子	戸松 章	富永 二郎	中井 倫子	中尾 拓也	中郷 貴士
中島 唯夫	中田 知男	中西 照明	中村 尚登	中本 真理	成田 祥子	西川 智久
西山 耕	納土 祐貴	野田 英明	野中 勇豪	野本 茂	萩原 良治	波多野 幸雄
服部 彩樹	華埜井 千尋	早川 千代子	林 清博	林 次郎	林 秀彦	林 洋一
日比 茂人	平井 樹男	廣川 光之	廣瀬 真仁	藤田 舜	藤田 守彦	古谷 祐詞
星野 州泰	堀江 扶美子	堀本 恵子	本多 靖明	松平 仁	松村 毅	松村 義敬
松本 芳子	三輪 哲人	村田 俊彦	村松 大武	森 健司	柳沢 亮二	矢野 克明
山内 友美加	山尾 令	山尾 ひろみ	山口 悦郎	山口 孝太郎	山口 力	山崎 淳
山田 勝己	山田 德行	山田 晴生	山本 順一郎	山本 美子	湯浅 阿沙	弓倉 宏志
横井 勇二	吉田 一亮	吉原 慶	若杉 里実	若林 英樹	渡邊 久子	

匿名 131件（五十音順）

<法人・団体>

愛知医科大学医学部後援会
A G株式会社
医療法人奥小児科医院
医療法人社団喜峰会東海記念病院
合同会社スズキ商店
豊田信用金庫
日本空調サービス株式会社
医療法人美衣会衣ヶ原病院
株式会社山下設計

愛知医大サービス株式会社
株式会社エフエスナゴヤ
鹿島建設株式会社中部支店
株式会社コアズ
株式会社田中葬具店
中尾産業株式会社
日本建築検査機構株式会社
株式会社山菊
ワタキューセイモア株式会社名古屋支店

あいち尾東農業協同組合
株式会社大林組名古屋支店
医療法人湘山会眼科三宅病院
医療法人佐和恵会
医療法人東海眼科
株式会社ナカシマ
医療法人ふれあい会
株式会社山岸設備

匿名 5件（五十音順）

寄附申込みに当たりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

令和7年度永年勤続者表彰

令和7年11月21日（金）午後3時から、大学本館たちばなホールにおいて、令和7年度永年勤続者表彰式が行われました。

祖父江元 理事長から表彰状が授与され、被表彰者へのお祝いと御礼の言葉とともに、「私たちと共に勤務を続けてこられたということは、ご本人にとっても色々な思いがあると思いますし、私たちにとっても非常に嬉しいことです。次の10年、20年と更に色々なことを考えながら頑張っていたいただければありがたいです。本当におめでとうございます」とあいさつがありました。被表彰者を代表して、病床



謝辞を述べる國枝副部長

管理部の國枝美雪副部長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。永年勤続者表彰の被表彰者は、次のとおりです。

30年勤続者（8名）

朝倉あゆみ 岩井 雅枝 金田 直樹 國枝 美雪 清水 由希 東 里和
松下 愛 山田佳世子

20年勤続者（20名）

新井 健一 石居謙太郎 伊勢谷昌弘 市橋 加奈 伊藤 友香 今井 美恵
岩田 純子 大場 理 大平 正宏 河尻 尚子 河津 奈深 木下 智美
工藤 千洋 坂梨 大輔 高羽久美子 長岡 史晃 中津 雅人 野々垣知行
日比野知絵 山田奈保子

10年勤続者（53名）

家田 仁 泉 雄介 一瀬 遥子 犬飼 大輔 井上 匡央 岩崎 研太
宇野英理子 江崎 菜摘 岡本 敦輝 垣田 博樹 春日井悠司 加藤 敦子
瓶井 資弘 河合 聖子 河合三穂子 河上 嘉孝 川辺 倫也 川本 柚香
車 哲成 小林 孝彰 小松 紘司 坂井茉莉奈 下田 博美 城庵 彩乃
杉浦 芳奈 須田 有紗 高木 健輔 高橋 理恵 津田 雅庸 当間 健治
内藤 千裕 中原 大志 成田 晶子 西村 千恵 野溝 夏美 波頭あかね
姫野 龍仁 平瀬 翔 藤田 裕子 二村 純子 松下 夏樹 松田 真弓
松山 克彦 壬生由里香 宮井 美里 村松 千賀 矢野多佳子 山岸可奈子
山口 純治 山崎 里那 吉峰 崇 渡邊 廣子 渡邊 勇太

（81名：五十音順・敬称略）

※氏名掲載は希望者のみ。表彰状に記載されている氏名としています。

愛知医科大学公開講座（尾張旭市連携事業）

令和7年11月8日（土）午前10時から、尾張旭市中央公民館302会議室において、尾張旭市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は、睡眠科の眞野まみこ講師が、「今日から明日へ時間を紡ぐ睡眠～毎朝、睡眠休養感とれていますか？～」と題し、眠れない、眠たい、寝足りないなど睡眠の悩みに関することや最適な睡眠習慣を修得する方法などについて講演されました。参加者からは「睡眠のメカニズムが理解できた」、「自身や家族の睡眠を見直すきっかけになった」などの感想があり、大変盛況な講座となりました。



愛知医科大学公開講座（瀬戸市連携事業）

令和7年12月20日（土）午後2時から、瀬戸市やすらぎ会館5階大集会室において、瀬戸市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は、「聴こえと健康寿命～ヘッドホン難聴で老化を早めていませんか？」と題し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の内田育恵教授（特任）が講演されました。

「聴こえ」は暮らしや健康に深く関わるものであり、健やかな毎日を送るために耳を大切にする方法などについてのお話があり、参加者からは「日常から気をつけた方が良いことなどの知識が得られた」、



「治る難聴や耳垢の話が大変勉強になった」などの感想があり、大変盛況な講座となりました。



献血ご協力ありがとうございました

令和8年1月15日（木）午前10時から、大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施されました。教職員・学生ともに多くの方にご協力いただき、冬期献血においては開始以来最多の献血受付数となりました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々には、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

冬の団体献血（結果）

・献血受付数	・78名
・献血できた方	・71名 (400mL・64名)
・献血できなかった方	・7名

願います。

次回は令和8年6月頃に予定していますので、ご協力よろしく願います。

災害医療研究センター 厚生労働省令和7年度老人保健健康増進等事業 「DH-Wins」システムの運用に向けた実証訓練実施

災害医療研究センターでは、高齢者介護施設が平時のBCP策定から有事の情報発信までを一貫してサポートする、福祉施設のための災害対応支援システムとして、災害時保健医療福祉情報連携ネットワークシステム（DH-Wins：Disaster Healthcare and Welfare Information Network System）を開発し、愛知県、海拔ゼロメートル地帯の市町村、高齢者介護施設及び医療機関等による災害時の効果的支援に向けて検討を重ねて参りました。

令和8年1月21日（水）に、愛知県自治センターにおいて、愛知県が毎年実施している南海トラフ地震時医療活動訓練と連携し、DH-Winsシステムの運用を検証する訓練が実施されました。

当日は、市町村職員、愛知県職員等約20名が参加し、南海トラフ地震発生想定の下、高齢者介護施設が発災時の施設情報を市町村へ送信し、市町村が情



実証訓練の様子

報を迅速に集約し支援方策や優先順位を立てた後、愛知県の福祉部門に集約情報を報告、愛知県は状況把握及び支援方策を検討するという実証訓練が行われ、DH-Winsシステムの社会実装に向けて今後の課題も明らかになり有意義な訓練となりました。

令和7年度介護施設等防災リーダー養成研修開催

令和3年度以降、本学の災害医療研究センターは、愛知県委託事業「介護施設等防災リーダー養成研修事業」に毎年採択されており、令和7年度においても介護施設等の職員を対象とした「防災リーダー養成研修」が10回にわたり開催されました。

研修は、座学の講義をWeb形式で事前に聴講し、当日は机上演習を中心とした実践的な集合研修として実施され、近年頻発している大規模地震などの激甚災害に対して、要配慮者を預かる介護施設等などのような被害が生じるか、また、その対策として何が必要かを考え、災害時に介護施設の業務を継続できるよう、「防災リーダー」の養成を目的としています。また、各施設に作成が義務付けられているBCP（事業継続計画）がより実効性のあるものへと改正する一助となる内容となっています。

今年度は、令和6年1月に発生した能登半島地震で実際に被災された高齢者施設の方を講師にお招きし、緊迫感の伝わる被災体験が紹介され、参加者は真剣に聞き入っていました。

机上演習では、DMAT資格を有するファシリテーターが進行する中、参加者が様々な状況での対応について積極的に意見交換し、本学医学部2学年次生も見学参加するなど、大変有意義な研修となりました。



あいさつをする津田センター長



机上演習の様子

令和7年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では「SD(スタッフディベロップメント):教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

ハラスメント防止講演会開催

令和7年11月13日(木)午後4時から、大学本館たちばなホールにおいて、「STOPハラスメント～働きやすい職場をめざして～」をテーマに、ハラスメント防止講演会が開催されました。名古屋人権擁護委員協議会の明石雅世会長を講師にお迎えし、教職員42名の参加がありました。【写真】

講演会では、明石会長から人権の歴史及び人権の三本柱(自由権・平等権・社会権)など、人権の基本的な知識についてご説明いただいた後、各種ハラスメントの定義及びハラスメント発生の構造・要因・背景などについて解説されました。続いて、ハラスメントを防止する第三者介入についてご説明いただき、最後に、医療現場で発生するペイシェントハラスメントについての情報提供をしていただきました。



講演会後のアンケートでは、「ハラスメントを見た場合の対処法は、とても勉強になりました。勇気を出して声をかけてあげることが大事ということが分かりました」、「人権について意識することでハラスメントを自分自身が起こさないよう気を付けたい」などの感想がありました。

新規採用事務職員半年フォロー研修実施

令和7年11月20日(木)午後1時45分から、大学本館702会議室において、新規採用事務職員を対象に、配属後半年を節目とした半年フォロー研修が実施されました。

今年度はキャリア及び課題解決演習をテーマとしてペアワークや発表が行われました。研修の前半では、ジョブカードを用いて入職からこれまでの経験を振り返り、自身の強み・弱みを整理しながら、今後のキャリアについて考える機会としました。また、ストレスへの対応方法及びリラクゼーション法の紹介も行われました。後半では、事例を基にした課題解決演習を通じ、他部署の業務及び本学の特徴への理解を深めながら、意見交換が行われました。

受講者からは、「将来何をやりたいかを考えるきつ



発表を行う事務職員

かけになった」、「自身の強みや課題を理解することで今後のスキルアップに活かしたい」などの感想がありました。入職後半年の節目に自身の業務やキャリアを振り返り、今後の成長に向けた意識を高める研修となりました。

目標管理評価者研修実施

令和7年12月19日（金）午後1時から、大学本館たちばなホールにおいて、目標管理評価者研修が実施されました。【写真】

第一部は評価初心者・基礎を再度確認したい方向けに、第二部は評価経験者・評価に困った経験がある方向けの内容として、管理職48名の参加がありました。

第一部では、評価の目的を改めて確認し、評価を「育成のきっかけ」として活かす考え方を学び、何をどのように見て評価するのか、事実に基づき具体的に表現する方法や、評価者が気を付けたいポイントを整理しました。併せて、面談の目的や基本姿勢、伝えにくい内容の伝え方を習得しました。

第二部では、これまでの評価を振り返り、適切に言語化する力を高めるとともに、評価の目的を再確認しました。難しいケースへの対応はケーススタディを交えて検討し、対話の質を高める面談スキル



や、フィードバックで生じやすいズレへの対処法を学びました。また、部下のタイプ別の対応や「伝えつつも」を防ぐ言葉の工夫についても習得しました。

受講者アンケートでは、「目標管理の面談方法について悩んでいたことに対する内容だった」、「他者を評価する経験がないため、基本から応用までを研修できて有意義だった」などの感想がありました。



令和8年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●学校推薦型選抜

<公募制>

- ①試験日 令和7年11月22日(土)
- ②志願者数 103名
- ③受験者数 103名
- ④合格者発表 令和7年12月4日(木)
- ⑤合格者数 20名

●国際バカロレア選抜

- ①試験日 令和7年11月22日(土)
- ②志願者数 10名
- ③受験者数 10名
- ④合格者発表 令和7年12月4日(木)
- ⑤合格者数 4名

●一般選抜

<第1次試験>

- ①試験日 令和8年1月20日(火)
- ②志願者数 2,254名
- ③受験者数 2,192名
- ④第2次試験受験資格者発表
令和8年1月29日(木)

- ⑤第2次試験受験資格者数
441名

<第2次試験>

- ①試験日 令和8年2月5日(木)・6日(金)
- ②合格者発表 令和8年2月12日(木)

●大学入学共通テスト利用選抜

<第1次試験>

- ①試験日 令和8年1月17日(土)・18日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和8年2月12日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 令和8年2月19日(木)
- ②合格者発表 令和8年2月26日(木)

●学校推薦型選抜<愛知県地域特別枠A方式>

- ①試験日 令和7年11月22日(土)
- ②志願者数 28名
- ③受験者数 28名
- ④合格者発表 令和7年12月4日(木)
- ⑤合格者数 7名

●大学入学共通テスト利用選抜<愛知県地域特別枠B方式>

<第1次試験>

- ①試験日 令和8年1月17日(土)・18日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和8年3月3日(火)

<第2次試験>

- ①試験日 令和8年3月10日(火)
- ②合格者発表 令和8年3月12日(木)

《看護学部》

●学校推薦型選抜

<指定校制>

- ①試験日 令和7年11月8日(土)
- ②志願者数 24名
- ③受験者数 24名
- ④合格者発表 令和7年11月18日(火)
- ⑤合格者数 24名

<公募制>

- ①試験日 令和7年11月8日(土)
- ②志願者数 56名
- ③受験者数 56名
- ④合格者発表 令和7年11月18日(火)
- ⑤合格者数 20名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 令和7年11月8日(土)
- ②志願者数 0名
- ③受験者数 0名

●一般選抜

- ①試験日 令和8年1月25日(日)
- ②志願者数 374名
- ③受験者数 369名
- ④合格者発表 令和8年2月4日(水)

●大学入学共通テスト併用型選抜

- ①試験日 一般選抜及び大学入学共通テスト日程
- ②合格者発表 令和8年2月12日(木)

●大学入学共通テスト利用選抜(A方式・B方式)

- ①試験日 令和8年1月17日(土)・18日(日)
- ②合格者発表 令和8年2月12日(木)

《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系, 臨床医学系各専攻合わせて17名
- 2 出願期間
令和7年12月1日(月) から
令和7年12月15日(月) まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は, 学力試験及び出身大学の調査書を
総合して選考する。
①試験日 令和8年1月30日(金)
②試験項目及び時間

時間	試験項目
10:00) 12:00	外国語(英語) 〔辞書使用可, 電子辞書不可〕 ※ 外国人志願者の外国語試験は, 英語一カ国語のみによる試験又は 英語と日本語の二カ国語による試 験のいずれかを選択する。
13:00)	面接試験(志望する専攻分野に関連 する専門試験を含む)

- 4 合格者発表
令和8年2月27日(金)
- 5 入学手続期間
令和8年3月2日(月) から
令和8年3月9日(月) まで

6 出願書類提出先

愛知医科大学医学部教務課大学院係

《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員 若干名
- 2 出願期間
令和8年1月5日(月) から
令和8年1月19日(月) まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法
入学者の選抜は, 学力試験, 小論文, 面接及
び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 令和8年2月5日(木)
②試験項目及び時間等

<修士課程>

時間	試験項目
9:00) 10:30	小論文
11:00) 12:30	専門科目(志願する専攻領域に関する 内容)
13:30)	面接

<博士後期課程>

時間	試験項目
9:00) 10:30	英語〔辞書・電子辞書(通信機能がな いものに限る)使用可〕
11:00) 12:30	小論文
13:30) 15:00	専門科目(志願する専攻領域に関する 内容)
15:20)	面接(研究計画書に基づく)

- 4 合格者発表
令和8年2月12日(木)
- 5 入学手続期間
令和8年2月13日(金) から
令和8年2月20日(金) まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部学務課大学院係

令和8年度学年暦のご紹介

令和8年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月1日	5・6学年次前学期授業開始
4月5日	入学式
4月6日・4月9日～4月10日	新入生ガイダンス
4月7日～4月8日	新入生研修
4月6日	4学年次前学期授業開始
4月7日	2・3学年次定期健康診断
4月13日	1～3学年次前学期授業開始
4月17日	1・4学年次学生定期健康診断
5月8日	5・6学年次総合試験A, 5・6学年次学生定期健康診断
5月11日	解剖慰霊祭
5月11日～5月15日	1学年次早期体験実習1a(シミュレーション実習)
5月25日～5月29日	1学年次早期体験実習1b(看護体験実習)
7月11日	6学年次共用試験臨床実習後OSCE
7月13日～8月30日	6学年次夏季休業
7月14日～7月16日	4学年次定期試験
7月17日～7月24日	4学年次地域医療早期体験実習
7月21日～7月24日	2・3学年次定期試験
7月27日～7月31日	1学年次定期試験
7月27日～7月31日	2学年次外来案内実習
7月27日～8月30日	3学年次夏季休業
7月27日～8月16日	4学年次夏季休業
8月3日～8月30日	1・2・5学年次夏季休業
8月20日	4学年次共用試験CBT
8月29日～8月30日	4学年次共用試験臨床実習前OSCE
8月31日	1～3・5学年次後学期授業開始
8月31日～9月4日	3学年次地域医療早期体験実習
9月25日	4学年次後学期授業開始
10月5日	6学年次後学期授業開始
10月8日～10月9日	5・6学年次総合試験B
10月10日	4学年次白衣式
10月15日	1～3学年次防災訓練
10月26日～10月30日	1学年次早期体験実習1c(臨床科見学実習)
10月31日～11月1日	医大祭
11月16日～11月24日	2学年次チーム医療実習
12月7日～12月18日	2学年次定期試験
12月14日～12月24日	1学年次定期試験
12月14日～12月16日	3学年次定期試験
12月21日～1月3日	2～6学年次冬季休業
12月25日～1月3日	1学年次冬季休業
1月4日	2学年次総合試験
1月15日～2月5日	2学年次地域社会医学実習
1月11日	4・5学年次総合試験C
1月18日	1学年次定期試験
3月1日～3月31日	1・3学年次春季休業
3月4日～3月31日	2学年次春季休業
3月6日	卒業証書・学位記授与式
3月8日～3月31日	6学年次春季休業
3月15日～3月31日	4・5学年次春季休業

看 護 学 部	
4月2日	4学年次前学期授業開始
4月5日	入学式
4月6日～4月10日	新入生ガイダンス・新入生研修
4月6日	2・3学年次前学期授業開始
4月7日	1・3学年次学生定期健康診断
4月13日	1学年次前学期授業開始
4月17日	2・4学年次学生定期健康診断
5月8日	4学年次定期試験
6月13日	2学年次キャンドルセレモニー
6月23日～6月26日	2学年次定期試験
7月27日～7月31日	3学年次定期試験
8月3日～8月7日	1学年次定期試験
8月3日～9月13日	2学年次夏季休業
8月3日～9月6日	3学年次夏季休業
8月3日～8月26日	4学年次夏季休業
8月10日～9月13日	1学年次夏季休業
8月27日	4学年次後学期授業開始
9月7日	3学年次後学期授業開始
9月14日	1・2学年次後学期授業開始
10月15日	総合防災訓練
10月31日～11月1日	医大祭
12月21日～1月4日	1学年次冬季休業
12月21日～1月3日	3学年次冬季休業
12月22日～1月4日	4学年次冬季休業
12月28日～1月4日	2学年次冬季休業
1月19日～1月20日	3学年次定期試験
1月25日～1月29日	1学年次定期試験
2月1日～2月5日	2学年次定期試験
2月1日～3月31日	1学年次春季休業
2月8日～3月31日	2学年次春季休業
2月22日～3月31日	3学年次春季休業
3月6日	卒業証書・学位記授与式
3月8日～3月31日	4学年次春季休業

令和7年度医学部FD開催

令和7年10月23日（木）午後5時15分から、大学本館711特別講義室において、令和7年度第7回医学部FDが開催され、受講態度について学内の教員による議論が行われました。

本学では、定期試験の受験要件に、授業への出席が3分の2以上必要とされています。一方で、コロナ禍以降は講義の録画・配信がされるようになり、学生がオンタイムで講義を聴講しなくても、オンデマンドで講義内容をキャッチアップできるようにな

りました。グループ内での議論では、授業の出欠を取ることを意味合いが不明瞭になりつつある昨今、出席の必要性の有無のみならず、どのような授業なら学生は出席をするのかについても話し合いがされました。

今回のFDでは出席の取り扱いについて結論は出ませんでしたでしたが、多くの教員が現状を理解し、何が教員に求められているかを考える契機になりました。

令和7年度大学院医学研究科FD開催

本学では平成28年度から大学院医学研究科FDを開催しており、今年度も2回の実施がありました。

第1回は、令和7年11月13日（木）午後5時30分から、大学本館301講義室において開催され、講師として独立行政法人医薬品医療機器総合機構の佐藤淳子執行役員をお招きし、「新規抗菌薬の開発促進と課題」をテーマにご講演いただきました。

第2回は、令和7年11月20日（木）午後5時30分から、大学本館303講義室において開催され、講

師として九州大学大学院農学研究院動物・海洋生物学講座代謝・行動制御学研究分野の池上啓介准教授をお招きし、「農学部出身者が医学部教員を経て思うキャリアについて」をテーマにご講演いただきました。

両日とも、医学研究科の多くの担当教員の参加があり、今後の研究・教育の質の向上に繋がる機会となりました。医学研究科では、引き続きFDを開催し、更に授業内容・方法を改善し向上させて参ります。

令和7年度東海がんプロセミナー開催

本学は、文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」において、名古屋大学を拠点大学とする「東海がん専門医療人材養成プラン」に連携大学として参画しています。この度、本事業への参画を通じて得られた最先端の学術情報を広く発信することを目的として、「東海がんプロセミナー」と題した学術シンポジウムが開催されました。本セミナーは、参画する7大学が持ち回りで開催しており、今年度は本学が開催担当校として運営致しました。

第1回は令和7年11月14日（金）午後2時30分から、名古屋コンベンションホールにおいて、第2回は令和7年11月15日（土）午前9時から、名古屋大学医学部附属病院において開催されました。両日とも、スイス・チューリッヒ大学病理学・分子病理学部門のホルガー・モッホ教授、アメリカ・エモリー大学医学部病理学・臨床検査医学科のアデボイ O. オスンコヤ教授を講師にお招きし、第1回は「海外における病理医教育」を、第2回目は「泌尿器病理」をテーマにご講演いただきました。

会場には多くの関係者が詰めかけ、最新の知見を共有するとともに活発な質疑応答が行われました。本セミナーは、本学における今後の研究及び教育の質の向上に寄与する、極めて有意義な機会となりました。



モッホ教授



オスンコヤ教授

医学教育者のためのワークショップ開催

令和7年12月12日（金）・13日（土）の2日間にわたり、シミュレーションセンターにおいて、学内の教員を対象としたワークショップが開催されました。「人間形成と創造性の啓発を図る一貫性のある教育をめざして」をテーマとして、新たに赴任・昇任された教員を中心に27名の参加がありました。

1日目は、本学の教育課題及びコンピテンシーの学生自己評価結果に基づいた議論が行われ、学生を交えた教授法の意見交換も実施されました。2日目

は、効果的な教育のポイント、学修支援の現状、情報・科学技術やAIの活用及びシミュレーション教育などについて情報共有が行われ、外部講師による実践的内容のグループワークも実施されました。

参加者からは、「基礎医学と臨床医学の枠を越えた意見交換が非常に有意義であった」との声が多く寄せられ、今後の教育改善及び授業設計に活かすための成果を得ることができました。

シミュレーションセンター10周年記念講演会開催

令和7年12月23日（火）午後5時30から、C棟8階シミュレーションセンター3において、シミュレーションセンター開設10周年を記念した記念講演会が開催され、東京慈恵会医科大学の万代康弘准教授（特任）、衛藤由佳助教のお二人にご講演いただき、医学部、看護学部及び病院看護部などから59名の教職員の参加がありました。また、初代シミュレーションセンター長である今井裕一名誉教授に来賓として参加いただきました。

講演では、最初に参加者自身が日常の教育場面で困っていることを周囲の参加者と共有しました。そ

の後、なぜ困っているのか、上手くいかない要因は何なのかを、教育理論を基に教えていただきました。いくら教えるテクニックを磨いても、ニーズアセスメントの不足、学修目標が曖昧、内容がチグハグ（詰め込み過ぎ／中途半端）であると、学習者に本質が伝わりにくいことや、ニーズ調査とそれに伴う学修目標の設定が適切に行われれば、8割上手くいくというお話がありました。

本日の内容は、学生教育のみならず、各部署での若手スタッフ教育、患者教育にも活用できるものとなりました。

看護学部進路懇談会開催

令和7年12月23日（火）午前9時から、C棟C202講義室において、3学年次生を対象とする看護学部進路懇談会が開催されました。

本企画は、履歴書書き方講座応用編、卒業生による体験談発表及び懇談会で構成されており、履歴書書き方講座応用編では、前回行われた履歴書書き方講座基礎編を踏まえて履歴書の完成度を高めました。

卒業生による体験談発表では、看護師、保健師及び助産師として活躍する卒業生4名から「就職・進学先を決定した動機やエピソード、現在の看護実践の状況、仕事を含めた生活など」についてリレー方式でお話しいただきました。

懇談会では、卒業生が職種別の懇談室へ移動し、3学年次生は自分が希望する職種の卒業生から様々なアドバイスを受けることができました。

開催後に行ったアンケートでは、「履歴書の書き方や面接の具体的なイメージが持てて、とても良い機会であった」、「卒業生へ直接質問することができ



履歴書書き方講座応用編の様子



懇談会の様子

て、分からないことを解決することができた」などの感想がありました。

看護学部就職支援講座開催

令和8年1月6日（火）午後1時から、C棟C202講義室において、2学年次生を対象とする就職支援講座が開催されました。

初めに、学生委員会の深谷基裕委員（小児看護学・准教授）から本講座の趣旨について説明があり、続いてナース専科から講師をお招きして、現在の就職活動の傾向、自分に合う就職先の選び方、必要なマナー及び心構えについてお話しいただきました。また、あいさつ、お辞儀及び着席の仕方など基本的な所作について実践を通じて確認しました。

実施後に行ったアンケートでは、「昨今の就職活動の傾向や始める時期を具体的に教えていただき、やるべきことが明確になった」、「就職活動について分からないことが多かったが、詳しく学ぶことがで



就職支援講座の様子

きた。早めに準備を始めて、これからの就職活動に備えておきたい」などの感想があり、これから就職活動を控える学生にとって、有意義な時間となりました。

ヘルスケア共創センター 地域連携部門 令和7年度長久手市市内一斉防災訓練へ参加

令和7年11月16日（日）午前9時から、長久手市市内一斉防災訓練が行われ、ヘルスケア共創センター地域連携部門が、市が洞地区での訓練に参加しました。会場の一つである市が洞小学校体育館には、一般市民を始め、自治会やまちづくり協議会等の地域の皆さま、市内の大学や企業の方など総勢120名の参加がありました。

本学からは学生ボランティアを中心に、安否確認訓練の受付サポートのほか、災害時のファーストエイドとしてけがへの対応（出血、骨折、搬送）の説明と実演、ローリングストック食材を組み合わせたバランスの良い食事の紹介及び非常用簡易トイレの使い方の説明とデモンストレーションが行われました。学生は、参加者の皆さまと積極的にコミュニケーションを取りながら知識を提供することができ、災



けがへの対応を説明する学生ボランティア

害への備えを自分事として考えるきっかけ作りができました。

今後も、看護学部ヘルスケア共創センター地域連携部門では、市民のニーズに合った健康支援を、学生とともに行って参ります。

ヘルスケア共創センター ユニフィケーション部門 令和7年度ヘルスアセスメント技術チェック実施

令和7年11月27日（木）に、看護学部1学年次生を対象としたヘルスアセスメント技術チェックが実施されました。この技術チェックは、初めての病棟実習の前にバイタルサイン測定を確実にできるようなことを目指しています。当日は、本院看護部の臨地実習指導担当者24名が指導に参加しました。

学生は事前に練習を重ねて技術チェックに臨み、終了後に指導者からフィードバックを受け、臨床でのフィジカルアセスメントの実際を学ぶことができました。学生にとって、臨床看護師にチェックしてもらうことで自信を持てるとともに、自己の課題を明確にする機会となりました。また、実習前に実際の臨床のイメージ化をすることができ、臨床看護師との関わりは、なりたい看護師像を描くことにも繋がりました。



技術チェックの様子

臨床指導者にとっても、自己の学生指導を振り返るとともに、学生が実習の中で成長していく支援をしていく必要があることを改めて学ぶ機会となりました。

今後も看護学部と看護部が協働して看護学部生に対する教育内容の質向上を目指した教育計画を実施していきます。

ヘルスケア共創センター ユニフィケーション部門 令和7年度卒業前研修「静脈血採血」実施

令和7年12月1日（月）に看護学部4学年次生を対象とした静脈血採血の卒業前研修（講義・演習）が実施され、学生44名の参加がありました。今年度は、ヘルスケア共創センターユニフィケーション部門の教員と本院看護部が協働で研修計画を立案し、学生への指導が行われました。

研修では、2学年次に学習した静脈血採血の基本を踏まえ、シナリオに基づき安全かつ安楽に静脈血採血を行うことを重視しました。卒業後の実践により近づけるよう、検査指示書や安全装置付き翼状針は、病院で使用しているものと同じものを使用しました。

学生からは、「臨床現場をイメージできた」、「実際に病棟で使用している物品と同じ形状のものを使えることは貴重な経験となった」、「患者さんへの配慮も考えたコツを教えてもらった」などの感想がありました。

今後も看護学部と看護部が協働して、卒前の看護基礎教育から卒後の新人看護師へのシームレスな教育について検討していきます。



研修の様子

ヘルスケア共創センター 生涯学修支援部門 特別セミナー開催

令和8年1月24日（土）午前10時から、ヘルスケア共創センター生涯学修支援部門による特別セミナーがオンライン形式で開催されました。東京大学大学院医学系研究科社会連携講座及びナースングデータサイエンス講座の友滝愛特任准教授を講師にお迎えし、県内外から17名の参加がありました。

当日は、「エビデンスのあるケアの普及」をテーマに、EBP（Evidence Based Practice）についてお話ししていただきました。EBPとは、より良いケアを目指し、利用可能な最良のエビデンスを医療者の専門技能と患者さんの価値観を統合する取り組みのことで、具体例を交えて分かりやすくご説明いただきました。

また、臨床の疑問を言語化する時に役立つPICO（Patient, Intervention, Comparison, Outcome）の考え方や、エビデンスへのアクセスの仕方も示していただきました。



セミナーの様子

参加者の皆さんからは活発な質問があり、セミナー終了後には「EBPの考え方を分かりやすく理解することができた」、「最新のエビデンスをどのようにキャッチするか分かった」などの感想がありました。今後のEBPの実践に繋がるセミナーとなりました。

第12回もーやっこJr.の広場に 学生ボランティアサークルHIAMUが参加

令和7年11月15日（土）に、瀬戸市・尾張旭市近郊の医療ケアを必要とする子どもと家族が楽しめるイベント「第12回もーやっこJr.の広場」が瀬戸蔵で開催され、本学の学生ボランティアサークルHIAMUが参加しました。

本イベントは瀬戸旭医師会を始め、瀬戸市、尾張旭市及び愛知県医師会の共催によって開催されており、瀬戸市の終訪問看護ステーション、近隣の在宅ケア事業所、本学の学生ボランティアサークルHIAMU、中部大学の学生を中心に活動しています。普段は医療が必要で外出が難しい子どもたちや、その家族と一緒に楽しみを分かち合える場を作り、小児の在宅医療ケアを学ぶ機会を設けることを目的としてスタートしました。

本学からは、地域・在宅看護学の佐々木裕子教授と小児看護学の坂川有希助教を始め、HIAMUの学生5名が事前準備に、10名が運営スタッフとして参加しました。昨年度に引き続き、実行委員には佐々木教授と学生が加わり、医師会や訪問看護ステーションの職員の方々と共に、事前の会議の段階から参加しました。会議では、どのような催し物にすれば医療的ケア児・家族に楽しんでもらえるか、またそのような子どもの支援に関わる医療従事者の今後の業務に役立ててもらえるかについて議論され、様々な工夫が凝らされました。

当日、HIAMUの学生は①スライム作りを体験してもらうコーナー、②ピアノやヴァイオリンの演奏に合わせて歌うコーナー、③季節に合わせた様々な塗り絵を楽しんでもらうコーナーの三つを担当しました。また、演奏のコーナーには筋萎縮性側索硬化症（ALS）を患う中学生がウクレレの演奏で参加し、演奏が終わると参加者から大きな拍手が巻き起こりました。

HIAMUの学生たちは、本学以外からスタッフとして参加した学生や看護師らとともに子どもと積極的に関わる姿勢がありました。子どもたちやその保護者からも、日頃なかなか体験できないレクリエーションに接することができたことに対する喜びの声が聞かれました。HIAMUとしては、昨年度から本イベントへの参加を再開しています。佐々木教授やOBである都築侑介医師からの助言・支援も受けな



参加者による記念撮影



スライム作り体験コーナー



演奏する学生

がら、きょうだい向けのイベントを担当するスタッフとして、実行委員会を構成する医師会や訪問看護ステーションなどとも密接な関係を築くことができます。今後も、外部のイベントに積極的に参加することで、普段の学業や実習ではなかなか関わることのできない方々との交流の機会が増え、それを通じて価値観の多様化が進む社会に対する理解が深まっていくことを期待します。

第50回愛知医科大学医大祭開催

本学にとって50周年という大きな節目を迎える「第50回医大祭」が、令和7年11月1日（土）・2日（日）の2日間にわたり、盛大に開催されました。

両日ともに天候に恵まれ、清々しい秋空の下、会場には地域の方々や親子連れ、学生及び教職員など、多岐にわたる方々が足を運び、活気ある医大祭を楽しむ姿が見られました。

例年人気の芸能人企画や、有志企画及びビンゴ大会も多くの観客を集め、趣向を凝らした様々な企画が実施されました。最終日のフィナーレにはスカイランタンが夜空を幻想的に彩り、記念すべき第50回医大祭の幕を閉じました。

学生たちが主体となって創り上げた、50周年という大きな節目の医大祭を無事に終え、次なる半世紀に向けて、本学が更なる一步を踏み出す機会となりました。開催に当たり多大なるご協力をいただいた全ての皆さまに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

【イベント概要】

☆ 期間中開催

- ・ 模擬店（16店舗）
- ・ こども病院
- ・ フリーマーケット（物販型&体験型）
- ・ 骨髄バンク啓発イベント（齊藤榊嵯斗さん追悼ブース併設）

☆ 11月1日（土）

- ・ 芸能人企画
- ・ 野外ステージ（軽音ライブ、AMU-1グランプリ）
- ・ 球技大会（サッカー、ソフトボール）

☆ 11月2日（日）

- ・ リサイクルマーケット
- ・ 文化人講演会
- ・ 野外ステージ（軽音ライブ、有志企画、ビンゴ大会）
- ・ 球技大会（サッカー、ソフトボール）
- ・ ラグビーエキシビジョンマッチ
- ・ 部活対抗リレー
- ・ スカイランタン

医大祭に寄せて

実行委員長 医学部3学年次生 渡部 清香

令和7年11月1日（土）・2日（日）に第50回医大祭が開催されました。今年は記念すべき第50回であることと、前進していくという意味のgoingを掛け合わせ、「50ing（ゴーイング）」をテーマに掲げました。「50年にわたり先輩方が築き上げてくださった思いを継ぎ、未来へ向かって進んでいこう」という思いを込め、より多くの皆さまが楽しめる医大祭になるよう、実行委員一同努めて参りました。

今年は大人気の芸能人企画やビンゴ大会に加え、東京大学の養老孟司名誉教授による講演会やスカイランタンなどの新企画を多数行いました。数ある企画の中でも、私たちの予想を遥かに上回る盛況ぶりを見せたのが、本館で開催した「こども病院」でした。シミュレーターを用いた心音の聴取や血管縫合の体験など、医科大学ならではのプログラムを用意したところ、会場には長蛇の列ができました。一生懸命に体験に臨み、白衣姿で笑顔を見せる子どもたちの姿は、私たち実行委員にとって何よりの励みとなり、大きなやりがいを感じる瞬間となりました。

また、本学の先輩で、急性骨髄性白血病と闘っておられた齊藤榊嵯斗先輩が令和7年9月に他界されました。多くの方に希望や勇気を与えてこられた先



輩の思いを繋ごうと、追悼展を開催させていただきました。

末筆ながら、この医大祭を無事開催できたのは、学生だけでなく、学校の教職員や学生課の方々、愛橘会や医学部後援会の皆さまのご協力のおかげです。そして、第50回という節目に当たりご協賛くださった保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

これからの医大祭が、愛知医科大学が、次の50年へと力強く飛躍していくことを心より願っております。



リサイクルマーケット



こども病院



追悼展



スカイランタン

医学部長表彰

今年度から「医学部長表彰」が新設されました。本制度は、医学部生の規範として称えるべき真摯な活動や貢献を行った学生を表彰することを目的としています。

記念すべき第1号の受表彰者には、医学部6学年次生の盤井未佑さんが選出されました。盤井さんは、アルバイト先の飲食店において、窒息によって意識を失った客に対し、直ちに窒息解除と心肺蘇生を目的とした救命措置を迅速かつ適切に行い、尊い命を繋ぎ止めることに多大な貢献をしました。

令和7年11月17日（月）午前10時から、大学本館4階副学長室において、表彰式が挙行され、医学部長からその勇気ある行動と医学生としての高い志が称えられ、表彰状及び記念品が贈呈されました。

受表彰した盤井さんからは、「この度は、名誉ある



表彰後の記念撮影

賞をいただき大変光栄に存じます。人命救助に成功した一方で、今、振り返ると多くの反省点や改善すべき点もあります。今後、自身が医師となった際にはこの貴重な経験を活かし、日々の診療に真摯に取り組んで参ります」との感想がありました。

医療法第25条の規定に基づく病院立入検査実施

令和7年11月7日（金）に、医療法の規定に基づく立入検査及び精神保健福祉法の規定に基づく精神科病院実地指導・審査が実施されました。【写真】

これらの検査は、医療機関としての適切な運営体制の確保と医療提供の質の維持・向上を目的に毎年実施されているものです。

当日は、関係部署が連携し各種書類や施設・設備の状況確認等が行われました。検査等を通じて、日頃の取り組みに対する評価をいただくとともに、運営面に関する助言等が示されました。現在、指摘を受けた事項については、関係部署において対応を進めており、今後も適正な医療提供体制の確保と、より質の高い医療の提供に努めて参ります。

<立入検査等>

- ・医療法第25条第3項の規定に基づく立入検査（厚



生労働省・東海北陸厚生局)

- ・医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査（愛知県・瀬戸保健所）
- ・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第38条の6に規定する実地指導及び実地審査（愛知県・瀬戸保健所）

愛知医科大学病院が「外傷診療施設機能評価制度」の SSS評価に認定されました

このたび愛知医科大学病院は、一般社団法人日本外傷学会による外傷診療施設機能評価を受審した結果、最高評価であるSSS評価（全国で12施設）に認定されました。認定期間は、令和7年4月1日から令和12年3月31日までの5年間です。

外傷診療施設機能評価は、同学会が明示する外傷診療施設として達成すべき項目に対し、一定の基準を満たした診療体制を持つ医療機関を認定するものであり、外傷診療レベルの底上げを目的としています。

また、SSS評価は、外傷診療体制、外傷診療の質、外傷診療における地域貢献などの点から、外傷診療施設として極めて高いレベルで実施している数少ない施設であることが認定されるものです。

本院では、地域社会への積極的な貢献を行うこと



認定証

で選ばれる病院を目指し、今後とも外傷診療体制の充実に努めて参ります。

令和7年本院手術件数12,000件達成

本院の手術室における令和7年の手術件数（局所麻酔含む）が、令和7年12月19日（金）に12,000件の大台に達しました。年間では12,302件となり、全国屈指の実績です。

年間12,000件の手術件数は、1室あたりにすると約600件に上ります。ここまで手術件数を増やすことができたのは、各診療科の手術に対する積極的な姿勢、麻酔科医の確保に加え、看護師、臨床工学技士及び薬剤師等の多職種連携の推進が大きな要因です。更に、ハード面を整備し、デジタル技術の活用によって手術室内の進捗が手術室外からも把握でき、より柔軟かつ効率的な対応が可能となりました。

麻酔科学講座の野手英明教授（特任）は麻酔科の部長及び中央手術部の部長として令和5年1月に就任以降、勤務環境の改善や人材育成等を進め、若手の麻酔科医が多く集まるようになりました。

野手教授（特任）からは、「全国屈指の症例数を



お祝い会に集まった外科系診療科及び手術室のスタッフ

支えるため、効率性と安全性を両立した仕組み作りとチーム医療の強化に取り組んで参りました。できるだけ早く必要な手術を受けていただける体制を整備することで、1日でも早く患者さんの不安が和らぐことを願っております。今後は、これまで培ってきた基盤の上に、更なる安全性の向上や患者満足度といった“質”の向上にも注力し、地域の皆さまからより信頼される手術医療の提供を目指して参ります」との感想がありました。

医療安全推進週間 ～自分の転倒リスクを知る～

厚生労働省は、11月25日（「いい医療に向かってGO」）を含む1週間を「医療安全推進週間」と定めています。本院では、本推進週間の取り組みとして、「自分の転倒リスクを知る」をテーマに、令和7年11月18日（火）から11月20日（木）まで、患者の医療参加を促進するイベントが実施されました。

期間中は特設ブースを設け、フレイルに関する紹介を行うとともに、患者さんやご家族に握力測定を

行ってもらい、数値を記入した用紙を渡し自身のフレイルの状態を把握していただきました。

また、株式会社八神製作所やガミホームヘルスセンター及びアルフレッサ株式会社のご協力により、転倒・転落予防に役立つ医療器具の展示及び体験が実施されました。患者さんやご家族に実際に触れていただくことで、転倒・転落予防への理解を改めて深めていただく機会となりました。



医療器具の展示と期間中の様子

フレイルとは？

フレイルは年齢と共に心身の活力が低下し、要介護状態となるリスクが高くなった状態です。フレイルは、高齢期になって心身の機能や活力が衰え、虚弱となった状態です。健康と要介護状態との中間的な段階で、介護が必要となる危険性が高まります。フレイルを予防することで、その先にある要介護状態の予防につながり、健康寿命を延ばします。

心身の衰えは感じません

健康

心身の些細な衰えを感じ始めます

フレイル (前虚弱)

心身の機能が障害されます

要介護

転倒のリスクが低くなります

愛知県の健康寿命（2019年）

男性 72.85歳

女性 76.09歳

フレイルの特徴

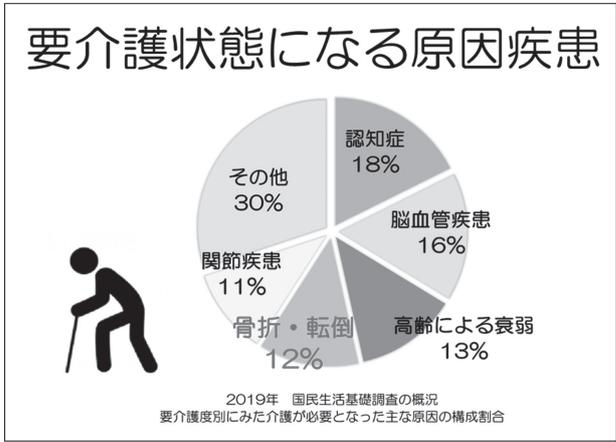
適切な予防行動をとれば、健康な状態に戻れる！

フレイルの予防で

健康寿命の延伸

*健康寿命とは？

日常生活に制限のない期間



握力を図ってみませんか？

フレイル標準基準 (利き手の握力)

男性 28Kg以下

女性 18Kg以下

みぎ Kg

ひだり Kg

フレイル紹介用ポスター

臨床研修指導医のための教育ワークショップ開催

令和7年9月12日（金）・13日（土）に、大学本館711特別講義室等において、今回で20回目となる臨床研修指導医のための教育ワークショップが開催されました。厚生労働省監督の下、院内から14名、学外から4名の計18名が参加しました。【写真】

卒後臨床研修センターの中野正吾センター長を始め、医学教育センターの伴信太郎特命教育教授及び早稲田勝久教授を中心とした運営陣に加え、学外から豊川青山病院の松井俊和院長をタスクフォースとしてお招きし、「研修医にとって良い指導医とは」をテーマに、2日間にわたるグループディスカッション及びレクチャーが行われました。

受講者からは、「指導医視点での研修医への接す



る方法を言語化できた」、「研修医だけでなく若手の教育にも応用したい」などの感想がありました。

本ワークショップを受講した指導医を中核に、更なる臨床研修の充実が期待されています。

小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

令和7年12月19日（金）午後3時から、8A病棟プレイルームにおいて、小児科医局の協力の下、クリスマス会が行われました。【写真】

当日は、スタッフによるハンドベル・ピアノ演奏とともに、子供たちと楽しくクリスマスソングを歌いました。サンタクロースとトナカイから、子供た

ち一人ひとりにプレゼントが手渡され、プレゼントを手にした子供たちは満面の笑みを浮かべていました。その後、〇×クイズが行われ、両手からこぼれ落ちるほどのお菓子を抱えて笑い合う様子も見られ、ご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。



延世大学校教職員による病院視察の実施

令和7年11月13日（木）午前9時30分から、大韓民国の私立大学である延世大学校救急医のYoonsuk Lee先生を始めとする5名が基幹災害拠点病院の指定を受けている愛知医科大学病院の施設及び設備を見学されました。今回の視察は、令和7年11月14日（金）15日（土）に静岡県プラサヴェルデにおいて開催の第32回日本航空医療学会総会・学術集会に向け、本院で活躍するドクターヘリについて情報交換を行いたいとの要望により実現したものです。

当日は、救急・災害管理棟の会議室において、災害医療研究センターの津田雅庸センター長からドクターヘリのみならず本院での災害医療・救急医療の取り組みについて説明があり、その後、本院救急関係施設（Hybrid ER、高度救命救急センター、



ドクターヘリ視察の様子

TACU、医療コンテナCoMU[®]、ドクターヘリなどの施設及び設備の見学が行われました。

本院での取り組みを説明の際には、延世大学校での取り組み状況についてもご説明いただき、活発な情報交換が行われました。

糖尿病療養支援チーム JICA中部青年研修「保健医療（生活習慣病予防）A」への協力

令和8年1月28日（水）午前10時から、JICA中部による青年研修「保健医療（生活習慣病予防）A」が開催され、糖尿病療養支援チームが研修に協力しました。研修生は、中南米9か国出身の若手の医師及び栄養士等の9名で、中央省庁・地方行政機関・医療機関等において、生活習慣病政策を所轄する部署で活躍されています。

当日は、午前中に糖尿病療養支援チームの片桐美奈子主任（糖尿病看護認定看護師）による講義があり、午後からはフットケア外来及び糖尿病教室の視察が行われました。日本に比べ、生活習慣病予防が緒に就いたばかりの中南米の研修生にとって、患者さん中心の包括的なケアが体系的に行われ、早期から合併症予防への取り組みが行われていることは強く印象に残ったようです。また、多職種が連携して



JICA研修生との記念撮影

患者さんを支える体制が整っていることや、糖尿病療養支援チームが作成した教育用教材などにも多くの研修生が関心を寄せていました。

JICA中部青年研修の受け入れにご協力くださいました皆さまに感謝申し上げます。

令和7年度第2回看護師特定行為研修指導者講習実施

愛知医科大学病院特定行為研修センターでは、厚生労働省「看護師の特定行為に係る指導者等育成事業」の一環として、令和7年度看護師特定行為研修指導者講習が計画されており、令和7年12月21日（日）に第2回となる講習会が実施されました。

本講習は、看護師特定行為研修制度の趣旨及び内容等について、指定研修機関及び協力施設における指導者の理解を促進し、効果的に指導を行うことができる指導者を養成することで、特定行為研修の質の担保を図ることを目的としています。

今回は、東京や大分など遠方の施設から医師及び看護師など23名の参加があり、特定行為研修の概要を始め、特定行為研修の能力評価方法やフィードバックの方法などについて学びました。施設による



講習の様子

体制の違い、求められる役割や課題の実態を知ることができ、これからの特定行為研修指導に活かすとともに、特定行為研修修了者の活動支援について考える機会となりました。

ナーシングフェスタ2025開催

看護部では、看護のやりがいと楽しさを分かち合う「ナーシングフェスタ」を毎年開催しています。今年度は、令和7年11月29日（土）に「リスキリング第2章～学びを看護の未来に繋ぐ～」をテーマとして開催され、304名と多くの参加がありました。

特別講演では、ヘルスケア共創センターの心光世津子センター長（精神看護学・教授）から、「学びあい、育ちあい、共に創る看護の未来～すべての看護職がヘルスケアの共創者～」をテーマにご講演いただきました。

また、看護研究発表を20演題、看護部委員会、医療チーム、専門・認定看護師や特定行為看護師によ

る体験型ブースの企画、愛すまいるによる企業展示に加え、今年度は新たに認定看護管理者養成研修ファースト・セカンド受講者による報告会が行われました。

参加者からは、「実際の看護に活かすことができる内容が多かった」、「体験型のブースで、新たな学びを得ることができた」などの感想があり、アンケート結果では96%が学びを得ることができたとの回答があり、満足度の高いナーシングフェスタを実現することができました。この学びを看護実践に活かし、更なる看護の質向上を目指していきます。

リーダーシップ研修及びナラティブレポート優秀賞表彰

令和7年11月29日（土）にナーシングフェスタ2025で実践報告された、若手看護職のリーダーシップ教育研修及びナラティブレポートの優秀者に対する表彰式が、令和8年1月20日（火）午前9時30分から、看護部長室において挙行されました。

若手看護職のリーダーシップ教育研修は、卒後2年目の看護師が職場の課題を主体的に捉え、周囲を巻き込みながら改善に取り組む力を育てること、リーダーシップ力を段階的に育成することを目的としています。研修生は6～8週間かけて部署の指導者のサポートを受けながら、①自部署の課題を発見する、②課題整理・改善策立案（企画書作成）・実践、③自己理解（自己評価表）について取り組みました。看護補助者へのタスクシフトや看護記録の充実等、部署のリアルな課題解決について特に良い取り組みをした看護部12B病棟の足立詩織看護師、手術室の森本海友看護師及び10A病棟の児玉恵深看護師が看護教育委員会から優秀賞に選ばれました。

ナラティブレポートは、看護職が患者の経験や自身のケア体験を「物語として書く」振り返りの方法です。看護部におけるクリニカルラダー申請時の必須課題であり、各部署より提出された多くのレポートの中から、最優秀賞にGICU病棟の小谷地奏汰看



リーダーシップ教育研修優秀賞表彰後の記念撮影



ナラティブレポート優秀賞表彰後の記念撮影

護師、優秀賞に12A病棟の富田捺月看護師、11B病棟の大石橋由莉菜看護師及び手術室の松尾実咲看護師が選ばれました。

受賞式では井上里恵看護部長から承認と期待の言葉がかけられ、表彰状と記念品が授与されました。

メディカルセンター 岡崎市コミュニティケア会議実施

令和7年12月1日（月）に、メディカルセンターにおいて、岡崎市北部地域福祉センター主催によるコミュニティケア会議が開催されました。

本会議は、医療・介護・福祉の連携強化及び地域課題の共有を目的に、地域のケアマネジャーを中心に多職種が参加し実施されています。今回はメディカルセンターが会場となり、日頃の連携の中で感じている課題や、退院支援・在宅療養に向けた支援体制について活発な意見交換が行われました。

参加者からは、顔の見える関係づくりの重要性や、情報共有の在り方について多くの意見が寄せられ、今後の地域包括ケア推進に向けた有意義な機会となりました。メディカルセンターでは、地域の医療・介護関係者との連携を一層深め、安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献して参ります。



グループでの意見交換の様子



グループワークの発表の様子

メディカルセンター 日本リウマチ友の会愛知支部スペシャルおしゃべり会実施

令和7年12月7日（日）に、豊田市福祉センターにおいて、日本リウマチ友の会愛知支部のスペシャルおしゃべり会が開催され、メディカルセンター医療技術部リハビリテーション室の大野真史理学療法士及び宮川幸大作業療法士が参加しました。

講話では、二人から参加者11名へ向けて、関節リウマチ患者さんにおける筋力トレーニング・有酸素運動を行うことの大切さを中心にお話しました。

体験では、サルコペニアのチェックから、いくつかの運動メニューが紹介され、実際に運動を行っていただきました。また、その後のディスカッションでは、関節リウマチとともに生活する上での不自由さや痛みを考慮しながら、日常生活の中で動きを維持していくためには、どのようにしたら良いかなどをお話しました。

参加者の方が積極的に取り組まれ、支部長からは、「専門家ならではの根拠のある具体的なお指導が分かりやすく、心に残りました」とお言葉をいただきました。

今回の会を通じて運動の大切さを知っていただき、自発的な運動習慣に繋がることを期待しています。



ディスカッションの様子



運動体験の様子

眼科クリニックMiRAI 市民公開講座開催

令和7年12月6日（土）午後2時から、メルパルク名古屋において、眼科クリニックMiRAIの市民公開講座が開催され、市民26名の参加がありました。「眼瞼下垂と逆さ睫毛」をテーマに、眼科の河野伸二郎講師が講演しました。当日の参加者は、講演中は真剣な表情で耳を傾けながらスライドをご覧になり、質疑応答では多くの質問が寄せられ、眼瞼下垂への関心の高さがうかがえました。

眼科クリニックMiRAIでは、偶数月の第一土曜日に目に関する病気の講演会を定期的に開催しています。今後も地域の皆さまに目の健康についての情報を提供し、意識向上に貢献して参ります。



河野講師による講演の様子

内科学講座（糖尿病内科） 山口 真広研究技術員（本学医学研究科生）
第40回日本糖尿病合併症学会優秀演題賞受賞

内科学講座（糖尿病内科）の山口真広研究技術員（本学医学研究科生）が、令和7年11月14日（金）・15日（土）に東京都の都市センターホテルで開催された第40回日本糖尿病合併症学会において、優秀演題賞を受賞しました。

この賞は、山口研究技術員の発表演題「末梢神経系における神経前駆細胞と糖尿病性多発神経障害の病態との関連性の解明」が、演題発表において、糖尿病合併症である末梢神経障害学の発展に大きく寄与するものとして評価されたものです。

受賞した山口研究技術員からは、「この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。これも皆さま方のご協力及びご指導のおかげと感謝しており



左から、山口研究技術員、大会主催関係者

ます。末梢神経障害は生活の質を著しく下げることから、より有効な治療法の開発のためにも今後もお一層精進していく所存でございます」との感想がありました。

メディカルセンター看護部訪問看護ステーション 澤田 由香利看護師
第41回愛知県看護学会優秀演題賞受賞

メディカルセンター看護部訪問看護ステーションの澤田由香利看護師が、令和7年12月13日（土）に愛知県看護協会会館で開催された第41回愛知県看護学会において、優秀演題賞を受賞しました。

この賞は、澤田看護師の発表演題「がん終末期療養者の自宅での看取りが実現した事例～家族へのアプローチに焦点を当てて～」が、示説演題において優秀であるとして評価されたものです。

受賞した澤田看護師からは、「この度の受賞を大変光栄に思っています。これも皆さま方のご協力並びにご指導のおかげと感謝しております。本事例を通して終末期ケアを改めて学び、訪問看護師として



澤田看護師（左）

大きな糧を得ることができました。今後も、より一層精進して参ります」との感想がありました。

学 術 振 興

令和7年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 増額に伴う委託研究開発変更契約の締結

令和7年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題について、委託研究開発費の増額に伴い、次のとおり変更契約を締結しました。

(金額単位：円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	増額後委託研究開発費(増加額)	研究開発課題名
医療機器等研究成果展開事業	大久保友人 医学部 解剖学, 助教	13,000,000	29,610,100 (16,610,100)	安全性と簡便性を両立する肺 癆修復技術の革新：生体付着 性ナノファイバーシートの開 発

- ・令和7年11月1日から令和8年1月31日までに日本医療研究開発機構と変更契約を締結した代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

研究助成等採択者

◇公益財団法人内藤記念科学振興財団

2025年度内藤記念科学奨励金・研究助成

- ・氏名 丸山健太 (薬理学講座・教授)
- 研究題目 感覚系による慢性腎臓病発症仮説の検証とその応用
- 助成金額 3,000,000円

◇公益財団法人三井住友海上福祉財団

研究助成【高齢者福祉分野】

- ・氏名 前田圭介 (栄養治療支援センター・教授(特任))
- 研究題目 生体インピーダンスベクトル解析の本邦リファレンス情報創出と妥当性検証
- 助成金額 1,400,000円

◇公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団

令和7年度調査研究助成金

- ・氏名 舟木空哉 (内科学講座(循環器内科)・研究員)
- 研究題目 冠動脈バイパス術後患者における遠隔介入システムの重症化リスク因子是正に関する予備的研究
- 助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人豊秋奨学会2025年度研究費助成

- ・氏名 榊原伊織 (生理学講座・講師)
- 研究題目 エピゲノムを介した運動誘導性転写制御機構の解明
- 助成金額 2,800,000円

- ・氏名 菱田朝陽 (公衆衛生学講座・教授)
- 研究題目 血中SDF-4・miRNAと遺伝リスクによる大腸がんスクリーニング法の確立
- 助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人臨床薬理研究振興財団若手研究支援

- ・氏名 木村元哉 (神経内科・助教(医員助教))
- 研究題目 急性期Branch Atheromatous Disease患者のCYP2C19の遺伝子

多型を踏まえたクロピドグレルの
臨床薬理学的有効性の検討

助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人テルモ生命科学振興財団

2025年度Ⅲ研究助成金

・氏名 神農英雄（周産期母子医療センター・講師）

研究題目 水素ガスによる新生児脳傷害の再生機序の解明と新規治療法の創出

助成金額 2,000,000円

◇HOYA株式会社医学・薬学に関する研究助成

・氏名 瓶井資弘（眼科学講座・教授）

研究題目 糖尿病黄斑浮腫におけるRPE機能障害の病態的意義：偏光OCTによる非侵襲的定量評価

助成金額 1,200,000円

◇公益財団法人発酵研究所若手研究者助成

・氏名 永沢亮（感染・免疫学講座・助教）

研究題目 大腸菌コロニー形成の分子機構の解析

助成金額 3,000,000円

◇公益財団法人鈴木万平糖尿病財団

2025年度若手研究者調査研究助成

・氏名 三浦絵美梨（内科学講座(糖尿病内科)・講師）

研究題目 クローン性造血と糖尿病性神経障害

助成金額 3,000,000円

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員としての来学された方をご紹介します。（敬称略）



シルベス ビン バトリック
SYLVES BIN PATRICK

国籍：マレーシア

現職：マレーシア・サバ大学

眼科医師

受入講座：眼科学講座

受入期間：R8.1.1～R8.3.31（3か月）

研究課題：上眼瞼挙筋の筋紡錘の解剖

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第79回日本臨床眼科学会
- ・第35回日本臨床化学会東海・北陸支部総会
- ・第5回日本フットケア・足病医学会東海北陸地方会学術集会
- ・第71回日本病理学会秋期特別総会
- ・第51回臨床神経病理懇話会
- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第188回東海地方部会連合講演会
- ・日本性感染症学会第38回学術大会

【開催日】

- 令和7年10月9日(木)～12日(日)
- 令和7年11月8日(土)
- 令和7年11月1日(土)
- 令和7年11月13日(木)・14日(金)
- 令和7年11月29日(土)・30日(日)
- 令和7年12月14日(日)
- 令和7年12月20日(土)・21日(日)

【会長等】

- 三木 篤也
- 中山 享之
- 児玉 章朗
- 都築 豊徳
- 岩崎 靖
- 藤本 保志
- 渡邊 大輔

第79回日本臨床眼科学会

近視進行抑制寄附講座・教授（特任） 三木 篤也

令和7年10月9日（木）～12日（日）の4日間、大阪国際会議場において、第79回日本臨床眼科学会を開催し、眼科学講座の瓶井資弘教授が会長、私が事務局長を務めました。【写真】

本学会は、眼科における国内最大の学会であり、本学が主管するのは初めてのことです。学会テーマは「なんでや!?!-知的好奇心」とし、本学のプレゼンスをアピールする絶好の機会ですので、多数の新しい企画を盛り込みました。ごく一部を挙げますと、四つの会長企画シンポジウム（「なぜ病気になるのか」等）、一般講演でありながら通常の4倍以上のディスカッション時間を設けた14分のVIPプレゼンテーション及びユニバーサル・スタジオ・ジャパンでの会長招宴・一般懇親会などです。このような新しい試みは前例がなく、準備は大変でしたが、瓶井会長以下医局員一同全力で取り組み、大きなトラブルなく成功裡に学会を終えることができました。幸い新企画も好評であり、参加登録者数も11,417名と、同学会史上第二位の多数の方に参加いただくことができました。一般講演616演題（応募648演題）、特



別講演・招待講演4題、シンポジウム21セッションなど、学術的にも大変充実した学会となりました。本学会に適した会場が現在愛知県にないため残念ながら大阪での開催となりましたが、愛知医科大学ここにありということ全国の眼科医にアピールできたのではないかと思います。

このような大きな学会の会長、事務局長を務める機会をいただいた関係各位、また学会開催に当たりご支援をいただきました多数の本学関係者の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第35回日本臨床化学会東海・北陸支部総会

輸血部・教授 中山 享之

令和7年11月8日（土）に、ウインクあいちにおいて、第35回日本臨床化学会東海・北陸支部総会を開催致しました。本会は第65回日本臨床化学会年次

学術総会との合同開催であり、シンポジウム形式で開催しました。

シンポジウムは、テーマを「多様化する災害リス

クと臨床検査室の使命－震災・サイバー攻撃・パンデミックなどから学ぶ備えと対応」と題し、多様化する災害リスクに対し、能登半島地震や熊本地震、サイバー攻撃及びCOVID-19パンデミック時等の実例をもとに臨床検査室の在り方、更に今後の課題や展望について4名のシンポジストの先生にご講演いただき、その後活発な討議及び意見交換が行われました。

今回、学会全体での参加者約100名と大変多くの

第5回日本フットケア・足病医学会東海北陸地方会学術集会

令和7年11月1日（土）に、ウインクあいちにおいて、第5回日本フットケア・足病医学会東海北陸地方会学術集会を開催致しました。本地方会は、足病医療・フットケアに携わる医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士及び義肢装具士など多職種が一堂に会し、地域に根ざした実践と学術的知見を共有することを目的としております。

本学術集会では、包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）やフットケア、創傷治療、血行再建及び在宅医療との連携など、東海・北陸地域の臨床現場が直面する課題を多角的に取り上げました。特に、地域ネットワークを活用した症例検討や、多職種協働による実践的セッションを通じて、足病重症化予防とQOL

ご参加をいただき、盛況のうちに終えることができました。今回のシンポジウムで得られた知識を活用して、万が一の際にも安定した中央診療部運営を継続できるような体制づくりを目指したいと思います。末筆になりましたが、本会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会を始めとする皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

外科学講座（血管外科）・教授 児玉 章朗

向上に向けた具体的な方策について活発な議論が行われました。例年、300名程度の参加者でしたが、今回は全国から550名程度の方々に現地参加いただきました。またオンデマンド配信も80名を超える方にご視聴いただき、非常に盛会に終えることができました。

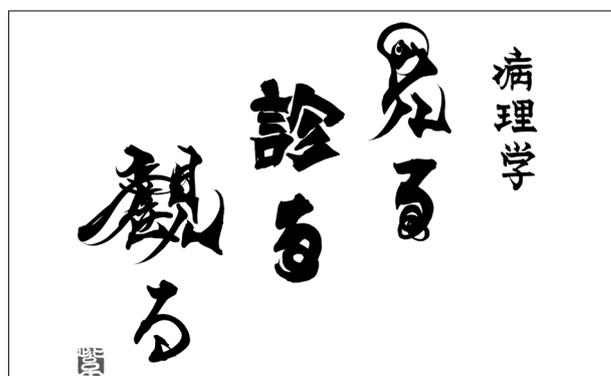
本学術集会が、地域における足病医療の質向上と人材育成の一助となり、今後の診療・研究・教育の発展に繋がることを願っております。最後に、本学術集会の開催にご尽力いただいた関係者の皆さま、ご支援をいただきました一般財団法人愛知医科大学愛恵会、ご参加いただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。

第71回日本病理学会秋期特別総会

病理診断学講座・教授 都築 豊徳

令和7年11月13日（木）・14日（金）の2日間、名古屋コンベンションホールにおいて、第71回日本病理学会秋期特別総会を開催致しました。本総会は、会長を私・都築が務め、副会長として病理学講座の笠井謙次教授に多大なる御尽力を賜りました。愛知医科大学として日本病理学会総会を主宰するのは今回が初めてであり、本学の学術的発信力を内外に示す重要な機会となりました。学会テーマを著名な書家である紫舟氏に揮毫していただきました。

会期中は天候にも恵まれ、全国各地より多数の参加者を迎えることができました。一般演題に加え、



紫舟氏による学会テーマの揮毫

各専門領域を代表する国内外の著名な演者による最新知見の講演、並びに欧州及び米国病理学会の会長

経験者による病理医教育を主題とした特別講演が行われ、質疑応答の時間を制限せざるを得ないほど、終始活発で水準の高い討論が展開されました。これらの講演はオンデマンド配信も実施し、学会後も多数の視聴を得ることができました。

学会終了後に実施したアンケートでは、参加者満

足度は97%を超え、本総会が極めて高い評価を得たものと受け止めております。

結びに、本総会の開催に当たり、多大なる御支援を賜りました一般財団法人愛知医科大学愛恵会に対し、主催者を代表して心より深甚なる感謝の意を表します。ここに謹んで御礼申し上げます。

第51回臨床神経病理懇話会

加齢医科学研究所・教授、研究所長 岩崎 靖

令和7年11月29日（土）・30日（日）の両日にわたり、大学本館において、第51回臨床神経病理懇話会を滞りなく開催することができました。【写真】

本懇話会は半世紀にわたり臨床と病理を架橋する学術的基盤として継承されてきた重要な討論の場であり、今回も全国各地から多数の先生方にご参集いただき、神経変性疾患、炎症性疾患、血管障害、腫瘍及び代謝・遺伝性疾患など多岐にわたり、質の高い演題発表と建設的な討議が展開されました。臨床経過や画像所見と病理所見を精緻に対照し、最新の分子病態解析や診断技術と結びつけた発表の数々は、今後の神経病理学の更なる発展を確信させるものでした。若手研究者・臨床医の皆さまにおかれましては、本懇話会で得られた知見と議論を礎として、次世代の神経病理学を牽引していかれることを心より期待しております。



また、初日のプログラム終了後には、レストランオレンジにおいて懇親会を開催し、弦楽四重奏の調べとともに、参加者相互の交流と親睦が一層深まる貴重な機会となりました。

本懇話会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会を始めとする学内外の関係各位より賜りました多大なるご支援・ご協力に、改めて衷心より御礼申し上げます。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第188回東海地方部会連合講演会

令和7年12月14日（日）に、本学本館たちばなホールにおいて、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第188回東海地方部会連合講演会を開催しました。開催形式は現地のみで行いました。

本地方部会は愛知県4大学、岐阜大学及び三重大学の6大学、基幹病院として愛知県がんセンター、名古屋医療センター含めて8施設の当番制で運営されております。耳鼻咽喉科頭頸部外科には関連学会が15あります。それぞれの専門性が高くなる傾向にあり、年に一度の総会では全ての専門領域の演題が揃うものの数会場に分散します。本地方部会では1

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座・教授 藤本 保志
会場での討論となり、日頃接しない他領域の演題にも触れる貴重な機会となるため、中堅・若手にとっては重要な学びの場となっております。今回は三重や岐阜など遠方からも含め129名の方々の参加がありました。今回は、一般演題の発表が31題あり、活発かつ有意義な質疑応答が行われました。

皆さまのご協力により、また、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からのご支援により、大きなトラブルもなく終了できましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日本性感染症学会第38回学術大会

皮膚科学講座・教授 渡邊 大輔

令和7年12月20日（土）・21日（日）の2日間
わたり、ウインクあいちにおいて、日本性感染症学
会第38回学術大会を開催しました。【写真】

本学会は皮膚科，泌尿器科，産婦人科，感染症科
の医師だけでなく，検査技師，行政及び性教育者な
ど性感染症を含めた「性」に関わる多職種からなる
学会で，年に1回の学術大会総会を開催しています。
本学主催としては第13回（平成12年／野口昌良名誉
教授），第26回（平成25年／臨床感染症学講座の三
嶋廣繁教授）以来3回目となります。

今回の学会テーマは「温故創新」とし，70以上の
一般演題発表に加え，四つの特別講演，四つの教育
講演，六つのシンポジウム，ミニレクチャー，そし
て共催シンポジウムを含む九つの共催セミナーが催
されました。また，例年恒例となった日本性感染症
学会と日本エイズ学会の合同シンポジウム，認定士
への集い，そして学会終了後にはこれも恒例となっ
た市民公開講座も開催されました。年末の慌ただし
い時期の開催となり，天候も生憎の雨模様でしたが，
800名を超える参加者があり，活発な討議が行われ



て学術大会を盛会裏に終えることができました。会
員懇親会では，長久手市に縁のあるものとして，愛
知県の無形民俗文化財である長久手の民俗芸能「棒
の手」の演舞披露，長久手市にあるクラフトビール
醸造所「Totopia Brewery」のビールや愛知県の日
本酒が振る舞われ，会員の交流もより一層深まりま
した。

本学術大会の開催に当たり，格別なるご支援をい
ただきました一般財団法人愛知医科大学愛恵会並び
に関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

給与規程の一部改正等

新人事・給与制度改革の一環として、国家公務員制度に準拠しない独自の枠組みを構築するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年12月8日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学給与規程
- ・学校法人愛知医科大学役員及び評議員の報酬等の支給の基準

事務職員の服装ガイドライン等の規則整備

昨今の働き方や価値観の多様化に合わせて、職務中の事務職員の服装に関する規程が整備され、生産性の向上を目的としたオフィスカジュアル勤務に必要な事項が定められました。

施行日はいずれも令和8年4月1日

【新規制定】

- ・事務職員の服装ガイドライン

【廃止】

- ・女性事務職員の被服貸与基準（平成24年2月18日制定）

運動療育センター規程の一部改正等

運動療育センターの運用方法や会費等の料金を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年12月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部附属運動療育センター規程
- ・愛知医科大学医学部附属運動療育センターの部門の組織等に関する規程
- ・愛知医科大学医学部附属運動療育センター協議会規程
- ・愛知医科大学運動療育センター利用会則

課外活動連絡協議会規程の一部改正

愛知医科大学課外活動連絡協議会規程の一部が改正され、各クラブの部長に限らず、各クラブの代表

者をもって協議会を組織できるように整備されました。

施行日は令和8年4月1日

看護部長の選任に関する内規の制定

愛知医科大学病院看護部長の選任に関する内規が制定され、愛知医科大学病院における看護部長の選任方法が定められました。

施行日は令和7年11月1日

臨床研究審査委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院臨床研究審査委員会規程の一部が改正され、臨床研究法の改正に伴う必要な事項が整備されました。

施行日は令和7年11月1日

高難度医療提供に関する規程の一部改正

高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する規程の一部が改正され、高難度新規医療技術を用いた医療提供の際に用いる説明同意書が改訂されました。

施行日は令和7年10月21日

輸血療法委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院輸血療法委員会規程の一部が改正され、委員会の成立要件が変更されました。

施行日は令和8年1月1日

メディカルセンター看護師特定行為管理規程の一部改正等

メディカルセンターにおける看護師の特定行為業務の運用及び管理に必要な事項を定めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和7年11月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学メディカルセンター看護師特定行為管理規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター看護師特定行為管理委員会規程

編 集 後 記

☆ 11月に6年ぶりとなる病院のボランティアコンサートが開催されました。コンサートは冬を除いて毎月の恒例企画でしたが、コロナ禍に入ってから中止しており、ボランティアの皆さんのお力をお借りして再開が叶いました。6年ぶりとなると、懐かしいと思う方、新鮮だと思える方、色々な感想があることでしょう。パワーアップした音楽の力で、患者さんご家族に癒しのひと時を過ごしていただけたら幸いです。【広報課】

学報の送付を辞退される方は、広報課までご連絡ください。



X



Instagram

愛知医科大学公式SNS (@aichi_med_u)
では大学・病院の最新情報を発信中です。

愛知医科大学学報 第181号

発行年月日 令和8年1月31日

発 行 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 祖父江 元

編 集 人 長谷川 洋

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

学校法人愛知医科大学広報室広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 76-1181 (直通)